

2. 竹製品情報収集事業

別府産業工芸試験所 豊田 修身
佐藤幸志郎

要 旨

「竹のライブラリー開設を目指して」をサブテーマとした本事業は、国内の竹製品の主産地である別府が技術やデザインの情報を幅広く収集して加工し、全国に向けて情報発信基地としての役割を果たし、産地として一層の活性化を図ろうというものである。

主に、初年度ならびに2年度に図書、研究報告等の文献情報を収集し、最終年度に「技術ファイルやデザインファイル」を作成し関係機関へ事業の周知を行なうこととしている。

1. 目 的

平成4年度から3カ年事業で開始し、これまで2年間で竹に関する調査、収集、編集、整備等を多岐にわたり進めてきた。この事業は、近年の産業構造の変化により各種工芸産業の産地地図が大きく塗り変わり、竹産業においてもハイテク化や海外製品の流入が進み、小さな産地は衰退を余儀なくされている。このような中で、幅広い編組技術と多様な製品作りが可能な別府地域が、早急に県内外の様々な竹製品の技術やデザインの情報を収集し、それらを活用した新しい産地別府を築いていく事を目的としたものである。

2. 内 容

本事業では、情報収集として、竹に関する書籍や研究報告、特許情報等の文献資料の他、写真やビデオなどの画像情報、また実物の参考品等幅広く収集すると共に収集した情報をパソコン入力して常時検索可能なように整備した。以下、研究内容を「情報収集の内容」と「データ入力と検索システム」とに分けて報告する。

2-1 情報収集の内容

まず、情報収集の内容であるが、初年度は国の研究機関である製品科学研究所（現在の物質工学工業技術研究所）や森林総合研究所等をはじめ、京都市の試験場等他府県の研究機関を調査し、書籍や研究報告等の文献情報を主に収集した。図書はその後、国立国会図書館の調査等を基に収集購入を漸次進めており、現在は外国の竹関係、編組技法関係の購入に力を入れている。

次に特許情報であるが、これは特許庁の運営するパト

リスというコンピュータ検索システムを利用して情報を入手した。キーワードによる検索で、「竹」や「竹材」「竹製品」等で検索し、現在600件ほどの竹に関する特許及び実用新案の抄録を入手している。

次に平成5年度に力を注いだ分野である技術情報、製品デザイン情報は、全国の竹の産地や企業を調査し、各地の素材、技術、技法、製品デザインを写真として収集するとともに製品についてはサイズや用途等も記録した。調査用紙を作成して実測や聞き取りによって調査を行なった他、県内の竹を素材とした技術、技法についてはビデオにより記録を進めている。これまで中津市の和傘、竹田市の竹刀、庄内町の青竹製品などの加工工程を収録している。

また、技術やデザインを参考にする際、最も良い方法は実物を見ることであるから、参考品としての製品購入も適宜行なっている。

2-2 データ入力と検索システム

以上のような情報を収集しているが、それら情報資料の利用者に対して、適切にかつ迅速に提供することが必要になってきた。そこで、パーソナルコンピュータによる入力を行い、情報を様々な角度から加工できるように作業を現在進めている。

収集した資料は次のような内容で、現在約417件である。（特許情報は除く）

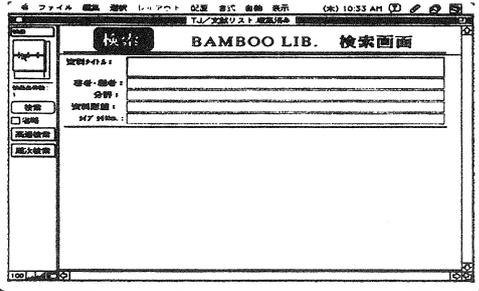
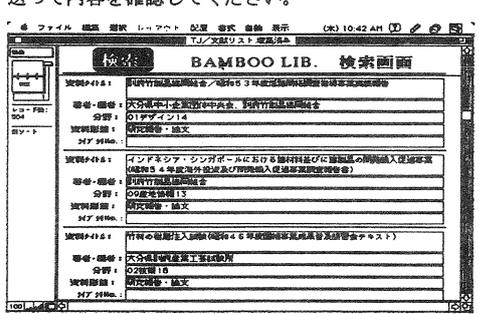
・書籍	142件
・研究報告、論文	215件
・カタログ、図録	24件
・雑誌、新聞記事、情報誌	9件

- ・会報、専門誌 10件
- ・映像資料（ビデオ等） 7件
- ・現地調査記録 6件
- ・その他 5件

これらの資料を「デザイン」、「技術」、「植栽」、「物性」、「管理法」、「参考製品」、「民俗」、「歴史」、「産地情報」、「定期刊行物」、「人」、「その他」の12項目に分類整理し、コンピュータを利用した検索について整備を進めている。これは、所内に設置したコンピュータに資料名、著者名等のデータを登録しておき、様々な条件設定をして検索することにより、関連するその他の資料についても同時に見つけだすシステムである。

資料の探し方をコンピュータの画面で説明すると次のようになる。

コンピュータによる検索

- ① 職員に“竹のライブラリ”利用の旨を伝え“利用者名簿”にお名前をご記入ください。
- ② 画面に表示されている「検索」キーを押します。
- ③ 探したい項目を押して選択し、資料名などをキーボードより入力します。資料名の一部しかわからない場合は、「順次検索」より「==“**”」を選択してから入力します。「リターン」キーで検索を開始します。

- ④ 検索されたデータは下部に続いていますので、画面を送って内容を確認してください。

- ⑤ 資料は、専用書架に番号別にまとめてありますので検索した資料NO.によりお探ください。

3. 考 察

本事業は、情報収集を基本としているため竹に関する情報を常に入手できるよう心がけ、情報の収集・加工・提供といった継続した体制を持つ必要がある。さらに今後は、海外の情報やビデオ、スライド等の映像に関するニーズが高まることが予想され、その収集方法を検討しなければならない。

事業のこれまでの段階では、情報の収集という一方的な作業であるにもかかわらず、多くの方々の理解と協力により成果をあげることができた。ご協力いただいた方々からは、竹産業の新しい発展に地域という枠を越えて支援していただき、様々な形で情報を提供してもらっている。今後は、本事業を全国の関係機関へ周知し、当所より情報の発信を積極的に行なう必要がある。

資料の分類項目

- 01デザイン
 - ・近年デザイン開発された竹製品の図録、開発レポート、図面など。
 - ・竹製品デザイン開発のための形態、編組パターン、等のデザインソース。
- 02技術
 - ・竹製品製作のための材料処理・加工、編組技術、塗装・染色等の技術解説。
 - ・竹材利用のための新規開発技術の解説、報告。
 - ・歴史的、地域的に見て特殊な竹材加工技術。
- 03植栽
 - ・竹の分類、生理、生態、栽培法、造園等についての研究報告、技術解説。
- 04物性
 - ・竹材の機械的性質、力学的構造等の物理的材料特性についての研究報告。
 - ・竹材の化学的材料特性についての研究報告。
- 05管理法
 - ・竹材防虫防バイの研究報告、解説。
- 06参考製品
 - ・竹以外の編組材料（籐、柳、かざら等）を使用した製品の図録、技術解説。
 - ・竹製品製作のための周辺技術（木材加工、挽物技術等）の技術解説。
- 07民俗
 - ・民俗学的に見た竹材加工技術の変遷。
 - ・民具の図録、調査研究報告。
- 08歴史
 - ・竹工芸産業（主に県内）の歴史。
 - ・竹工芸に関連する公設試験研究機関の歴史。
- 09産地情報
 - ・県内、県外の竹製品、編組製品の産地紹介資料。
 - ・海外の竹製品、編組製品の産地紹介資料。
- 10定期刊行物
 - ・竹、竹材、竹製品を専門に扱う雑誌、会報等の定期刊行物。
 - ・竹製品についてのデザイン、技術開発記事の多く掲載される定期刊行物。
- 11人
 - ・竹産業界に足跡を残す人物の著述や紹介等。
- 12その他
 - ・上記項目に含まれないが、竹製品に関連する生活・文化様式（茶道・華道等）や竹に関する随筆、小説等の資料。